

## 群馬県商店街(振)連合会 青年部研修会・商店街視察



3月14日、群馬県商店街振興組合連合会は、前橋市千代田町の複合施設「c o m m(コム)」において、青年部キックオフセミナーを開催し、研修会と商店街視察を行った。

連合会では、県内各地の商店街青年部の連携強化を目的に、「連合会青年部」の立ち上げを検討しており、今回はその第一弾として県内の青年事業者17名が参加した。

会場となったc o m mは、「前橋市まちなかのシェアオフィス」として、商店街の新しい価値の創造と、場のリブランディングを軸に、街を想う多くの市民や企業によってセルフリノベーションした施設。

第1部の研修会では、桐生市出身でぐんま特使も務めるキャスターの小森谷徹氏が、「これからのまちづくり～コミュニケーションでイノベーション～」と題して講演した。



講演する小森谷氏

小森谷氏は、人口減少時代のまちづくりにおいて、「人が集まりたくなる」「ぶらぶらしやすい、わくわくする」商店街が必要になると強調。地域住民とのコミュニケーションを増やして新たな視点を持つことが、地域活性化を促進させていくと説いた。

また、地域内でのコミュニケーション量が低下すると地域への愛着度も低下するという京都大学の研究結果から、いかに地域住民との交流が重要となるかを述べた。

さらに、地域住民と上手くコミュニケーションを図

り、地域に受け入れられた成功事例として、前橋にも出店しているカフェの創業当時の取り組みを紹介した。



事例紹介する大橋氏

第2部の商店街視察では、はじめに前橋中央通り商店街振興組合の大橋慶人理事(連合会副会長)が、前橋市中心部の空き店舗対策について講演を行った。

講演では、空き店舗のオーナーと新規開業者のマッチングに関する成功事例や2016年8月に前橋市が地方経済活性化を目指して策定した「前橋ビジョン」等を紹介。商店街では、前橋ビジョンに賛同した企業家有志が中心となり、空き店舗への新規出店を後押ししていると説明した。

講演後は、大橋氏がガイド役となり、商店街に新規開業した店舗等を見学した。



1分間トークのペアワークを体験



新規店舗の案内を中心に、商店街内を歩いて視察